

女性現実研究所 資料『女性現実物語』

性犯罪・性教育・性学習調査研究報告コホート (ゾーン)

社会生活や学校生活における女性の性

まるで物語のような女性の現実に寄せて

初版：2004年2月21日

最終更新：2019年9月22日

～ 著者 ～

◆女性現実研究所 代表スタッフ (代表ウォッチャー、男女)

～ 編者 (女性からのご相談、ご投稿、情報提供の受付および本著の編集) ～

◆女性現実研究所 幹部女性スタッフ (幹部女性ウォッチャー) 一同

～ ご協力者 (代表および幹部女性スタッフ一同より厚く御礼申し上げます) ～

◆女性現実研究所 一般女性スタッフ (一般女性ウォッチャー) の皆様

(社会人女性スタッフ、主婦スタッフ、女子大学生スタッフ、女子高校生スタッフ)

◆女性現実研究所にご相談、ご投稿、情報提供して下さった全ての女性の皆様

(本著では、女性ご本人から公表のご希望やご許可を頂いた事例のみを取り上げておりますが、全ての女性にメール返信や面談などの個別対応を行っております。)

## 目次

### 1. 概要

- (1) 社会の崩壊、学校の崩壊
- (2) 女子大学生、女子高校生スタッフについて

### 2. 日本の社会・学校における女性の性被害、性依存への対処法の際だった特徴

- (1) 親族・パートナー・友人への相談や自治体・警察への通報のためらい
- (2) AV出演、性風俗業就業、アイドル・タレント活動

### 3. 昭和時代・平成時代初期のアダルトコンテンツ

### 4. 公的な（公共の場で提供される）女性コンテンツと女性の性

- (1) 公共交通機関・公共施設における女性の性（女性専用車両など）

#### (ア) 女性からのご相談事例

- (a) 女性からのご相談事例 1
- (b) 女性からのご相談事例 2
- (c) 女性からのご相談事例 3

#### (イ) ウォッチャー調査報告（考察と対応）

#### (2) カワイイ区

#### (ア) 女性からのご相談事例

- (a) 女性からのご相談事例 1

#### (イ) ウォッチャー調査報告（考察と対応）

#### (3) 公衆トイレの男女区分解消策

#### (ア) 女性からのご相談事例

- (a) 女性からのご相談事例 1

#### (イ) ウォッチャー調査報告（考察と対応）

### 5. 社会人女性の性生活の多様化（未婚・晩婚・生涯独身時代における女性の性欲）

#### (1) 女性からのご相談事例

- (ア) 女性からのご相談事例 1
- (イ) 女性からのご相談事例 2
- (ウ) 女性からのご相談事例 3
- (エ) 女性からのご相談事例 4
- (オ) 女性からのご相談事例 5
- (カ) 女性からのご相談事例 6

#### (2) 女子学生・生徒からのご相談事例

- (ア) 女子学生・生徒からのご相談事例 1
- (イ) 女子学生・生徒からのご相談事例 2
- (ウ) 女子学生・生徒からのご相談事例 3

(工) 女子学生・生徒からのご相談事例 4

(3) ウォッチャー調査報告 (考察と対応)

6. 人工妊娠中絶の是非

(1) 人工妊娠中絶と我が子への虐待・殺人との関係

(2) 胞衣・患那の行き着く場所

(ア) 女性からのご相談事例

(a) 女性からのご相談事例 1

(3) ウォッチャー調査報告 (考察と対応)

7. 高校・中学校の校則・規則に見られる女子への性的・身体的制限事項

(1) 下着の色の制限 (白系) について

(ア) 女子生徒からのご相談事例

(a) 女子生徒からのご相談事例 1

(b) 女子生徒からのご相談事例 2

(c) 女子生徒からのご相談事例 3

(d) 女子生徒からのご相談事例 4

(イ) ウォッチャー調査報告 (考察と対応)

(2) 髪の色、髪型、化粧、スカート丈、ソックスの長さなどの制限について

(ア) 女子生徒からのご相談事例

(a) 女子生徒からのご相談事例 1

(b) 女子生徒からのご相談事例 2

(c) 女子生徒からのご相談事例 3

(d) 女子生徒からのご相談事例 4

(イ) ウォッチャー調査報告 (考察と対応)

8. 女子高校生・女子中学生という性的付加価値

(1) 女子高生・中学生の制服 (セーラー服、ブレザー) やスクール水着、ブルマー、下着などに対する性的興奮やそれらの売買について

(ア) 女子生徒からのご相談事例

(a) 女子生徒からのご相談事例 1

(b) 女子生徒からのご相談事例 2

(c) 女子生徒からのご相談事例 3

(d) 女子生徒からのご相談事例 4

(イ) ウォッチャー調査報告 (考察と対応)

(2) 女子高生・中学生の排泄物、唾液、涙などに対する性的興奮やそれらの売買について

(ア) 女子生徒からのご相談事例

(a) 女子生徒からのご相談事例 1

(b) 女子生徒からのご相談事例 2

- (イ) ウォッチャー調査報告 (考察と対応)
- 9. 女子学生・生徒や女性教師の性の提供および妊娠・中絶 (対男性教師や男子学生・生徒)
  - (1) 女子学生・生徒からのご相談事例
    - (ア) 女子学生・生徒からのご相談事例 1
    - (イ) 女子学生・生徒からのご相談事例 2
    - (ウ) 女子学生・生徒からのご相談事例 3
  - (2) 女性教師からのご相談事例
    - (ア) 女性教師からのご相談事例 1
    - (イ) 女性教師からのご相談事例 2
  - (3) ウォッチャー調査報告 (考察と対応)
- 10. 学校教育 (健康教育・体育) における裸や薄着の性的利用
  - (1) 裸教育の性的利用
    - (ア) 女子生徒からのご相談事例
      - (a) 女子生徒からのご相談事例 1
      - (b) 女子生徒からのご相談事例 2
    - (イ) ウォッチャー調査報告 (考察と対応)
  - (2) 水泳や陸上競技のユニフォームなどの性的利用
    - (ア) 女子生徒からのご相談事例
      - (a) 女子生徒からのご相談事例 1
      - (b) 女子生徒からのご相談事例 2
      - (c) 女子生徒からのご相談事例 3
      - (d) 女子生徒からのご相談事例 4
      - (e) 女子生徒からのご相談事例 5
    - (イ) ウォッチャー調査報告 (考察と対応)
- 11. 女子高生・女子中学生の AV 出演や援助交際、JK ビジネス
  - (1) 女子生徒からのご相談事例
    - (ア) 女子生徒からのご相談事例 1
    - (イ) 女子生徒からのご相談事例 2
    - (ウ) 女子生徒からのご相談事例 3
  - (2) ウォッチャー調査報告 (考察と対応)
- 12. 女子生徒 (娘) と母親の性
  - ～ ママ友・PTA・授業参観などに見られる内的な性的闘争 ～
  - (1) 母親からのご相談事例
    - (ア) 母親からのご相談事例 1
    - (イ) 母親からのご相談事例 2
    - (ウ) 母親からのご相談事例 3

(2) ウォッチャー調査報告 (考察と対応)

## 1. 概要

### (1) 社会の崩壊、学校の崩壊

私たちのもとはこれまで、おびたしい人数の社会人女性や女子高校生・女子中学生から、性に関する相談が寄せられてきた。私たちもできる限り丁寧に対応し、答えてきたつもりである。およそ半数が女子高校生からのご相談であるが、どの年齢層の女性からも相談を頂く。

少子化が進み、子ども一人あたりの教育に携わることのできる成人の数が増えたにもかかわらず、学校の崩壊が止まらない。増えたのは、実は高齢者ばかりで、優秀な教育者の人口は減る一方であり、にもかかわらず私大を中心に大学の数は増やされ続けたのである。そもそも今の子どもたちは、高齢者を支えるため、莫大な社会保険料や税金を支払う羽目になる。

中学女子・高校女子・大学女子の性の崩壊も止まらない(とされている)。だが正しくは、昭和時代の女子たちよりは、ずっと健全である。昭和時代の女子たちとは、つまりは今の高齢女性であり、社会人女性である。結局、社会全体の問題なのである。どの特定の女性の性道徳が正しくて間違っているとも言えないのである。

私たちも、極めて多くの女性たちの性の悩み相談の溜まり場となった駆け込み寺(代表スタッフらが創始した、女性を守る秘密探偵組織)であると言えるが、最近、同じく女性たちからの性の悩み相談(スクールセクハラ)をまとめた男性の著書が出た。スクールセクハラをはじめ、社会や教育現場における性被害について、声を上げる女性たちがそれだけ増えてきたということだろう。



『スクールセクハラ なぜ教師のわいせつ犯罪は繰り返されるのか』 池谷孝司、幻冬舎、2014)

私たちのこの資料では、ある意味では社会の被害者でもある若い女子たちの性の事情を中心に、社会生活・社会教育や学校生活・学校教育における女性たちの性問題を取り上げる。とりわけ、社会人女性による女子学生・女子生徒への性的搾取や性犯罪、実母・実姉妹や親族女性による娘・姉妹や姪への性的虐待など、隠れやすい性問題を取り上げたい。

## (2) 女子大学生、女子高校生スタッフについて

女現研では、女性スタッフを随時募集しているが、女子大学と女子高校（後年になってから男女共学となった学校も含む）については、各校に最低一名の学生と生徒を配置することを目標としています。詳しくは募集要項をご覧ください、ぜひお問い合わせ下さい。

## 2. 日本の社会・学校における女性の性被害、性依存への対処法の際だった特徴

### (1) 親族・パートナー・友人への相談や自治体・警察への通報のためらい

日本女性が性被害を受けた場合にとる最多の行動は、「あらゆる他言（相談、通報など）をためらう」というものである。私たち（つまり、性に関する研究者ではあるが、一国民にすぎない者らが創始した、ボランティアグループ）が性被害の最初の相談相手であったと告白した女性たちは、おびただしい人数にのぼる。このような被害女性たちの行動は、良く悪くも、日本の社会や学校における性被害の実態解明を遅らせることを積極的に手伝ってしまっている。

むろん、「他言をためらう」精神、忍耐力そのものは、決して非難されるべきでないし、そのような行動をとる被害女性たちの強さには思いを馳せるべきである。しかし、あまりに頑なな性被害女性に対しては、性被害の告発においてまで日本人らしい「恥」や「遠慮」の心を持つ必要はないということを私たちから諭すことがある。

### (2) AV 出演、性風俗業就業、アイドル・タレント活動

その一方で、性被害を受けて性観念が全く変容してしまい、AV への出演や性風俗業への就業（アルバイトを含む）に突っ走ってしまう女性が多いことも、また日本の特徴なのである。

国民的アイドルグループと称されるグループから AV 女優が出たり、逆に AV 女優がグループを結成してテレビ出演するなど、日本では女性の性関連産業と女子アイドル・タレント産業との間の壁が極めて薄いことに特徴がある。

昨今は、性被害とは無縁で、元より強い性的欲求、性依存、性的倒錯の傾向のある高学歴女性が AV 出演や性風俗業就業に至る例が後を絶たない。そのような女性本人から私たちのもとに来るご相談も増えている。

また、若年女性がアイドル・タレント活動の中で性被害やパワハラ被害を受けるケースも増えている。記憶に新しいところでは、農業生産法人Hプロジェクト株式会社なる法人が、愛媛県松山市を中心に活動する「愛の葉 Girls (えのはがーるず)」なる農業女子アイドルグループを展開していたが、このグループから自殺者が出ている。当該メンバーは大本萌景 (ほのか) さん (当時 16) で、現在はこのメンバーの遺族 (母や姉) が法人 (事務所) を相手に訴訟を起こしているが、メンバーが生前、家族に苦痛を訴えていたにもかかわらず、この親は取り合っておらず、むしろ事務所の出した資金でこのメンバーに学業をさせていたのである。

この一件をめぐるでも、周囲のアイドルたちが Twitter など「性被害やパワハラ被害はこの世界では普通で、それらを受けた仲間をいくらでも知っている」といった旨を書き込む事態となり、かえって大人と子どものセクハラやパワハラに対する意識の差が浮き彫りとなった。

昨今、宗教団体ではなくとも、とりわけ若い女性の心身の酷使と農業とを結びつけた活動を展開するこのような農業関連団体は増えている。農業の活性化をうたいつつ、実態は若い女性を酷使・搾取する、つまりは女性を消費するだけの悪質団体であることが多い。別に解説したヤマギシ会と同様、家族で団体に入るのではなく、自分の娘だけを団体に入れ修行させるケースが後を絶たない。

若い女性と農業 (土を触る仕事) と結びつける思想が、やがてヤマギシ会のように「性に潔癖である女性は幸福になれない」という思想に発展しないよう、農業系アイドルグループへの注視は特に必要なのだろう。

### 3. 昭和時代・平成時代初期のアダルトコンテンツ

児童ポルノ法や関連条例の成立と数度の改正により、児童ポルノへの監視の目は厳しくなった。しかし、日本は元々、児童ポルノが野放しにされていた国である。これについて、禁止されるべきものが野放しにされていたのか、それとも (江戸時代の春画や黄表紙に見られるように) 日本は元来老若男女の性について慣用であったが近現代の欧米基準に合わせて児童ポルノを制限せざるを得なくなったのか、研究者の間では議論がある。

しかし、少なくとも日本は、児童ポルノをどうして制限・禁止しなければならないのかを、性倫理としてあまり理解していなかった (そのような性倫理そのものがなかった) と言える社会であったことは間違いない。そのため、児童ポルノ法成立の時期まで、アジア圏の児童売買春の買い手のおよそ半数は日本人であり、世界で流通する児童ポルノの 6~7 割が日本製であった。(ストックホルムにおける「第 1 回児童の商業的性的搾取に反対する



世界会議」では、欧州圏で流通している児童ポルノの 8 割が日本製であるとされた。実際には 6~7 割ほどである。)

日本人の性観念は、世界でも独特である。一時期は、陰毛が映ってはいけいとされた。しかし、一方で、いわゆる「お菓子系」雑誌のように、女子の着衣姿そのものが性的対象となるような社会である。裏本や裏ビデオのように、当時から違法性の高いものもあったが、流通ルートに乗っていたビニ本などについても、陰毛や性器には修正が入るにもかかわらず、女子児童の胸や肛門の無修正は罰せられないなど、世界から見れば極めて歪んだ性観念が、日本（特に日本の政府・国会や教育界）ではごく普通に横行する特徴がある。むしろ、カストリ雑誌が出ていた敗戦直後の時代の性観念のほうが、バランスがとれていたように思う。

私たちが「自らアダルトコンテンツに登場・出演した成人女性の性器については日本でも無修正とすべきであり、その一方で、被写体の児童に一切の許可を得ていない児童ポルノは厳罰化すべき」と考えており、また女現研の代表・幹部女性スタッフへの着任もそのような価値観を持った女性たちをお願いしているのは、少しでも日本社会の性常識の歪みを是正したいと考えるからである。

#### 4. 公的な（公共の場で提供される）女性コンテンツと女性の性

##### (1) 公共交通機関・公共施設における女性の性（女性専用車両など）

###### (ア) 女性からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

###### (a) 女性からのご相談事例 1

「今現在、東京など多くの都会の路線では女性専用車が導入されています。便利なので、わたしも使ったことがありますが、たまに男性に対して申し訳ないなと思うことがあります。」

###### (b) 女性からのご相談事例 2

「先日、間違って電車の女性車両に乗った男性に対して、おばさんたちが寄ってたかって罵倒してました。その男性は松葉杖をついていましたので、おばさんたちに非があると思いましたし、私はその男性は乗ってもよいと思ってしまいました。一人で松葉杖をついている男性、体の不自由な女性の介助者の男性、体の不自由な男性とその介助者の男性、手足は健康でも目や耳の不自由な男性、のうち、どの男性が女性車両に乗ってよくて、乗っ

てはいけないのでしょうか。」

### (c) 女性からのご相談事例 3

「女子中学生です。毎朝電車で学校に通っています。電車の吊り広告を見ると、大人向けとされるたくさんの言葉にあふれています。わたしと友だちが調べてメモした言葉だけでもこういうものがありました。あと、コンビニにも、大人向けとされる雑誌がふつうに売っています。大人のコーナーに入れられていないものもありました。

H(エッチ)シーン満載、●●がAVデビュー、敏感オンナ、中出し祭り、乳の見せどき、変態ヘア(ヌード)、激安性器、子宮も壊れるS●X、電撃オーガズム、淫行を楽しむ、女子●生が歓喜の肉体関係、すっぽんぽん女子●生、イマドキ女子●生のクリ●リスの値段、女子●学生のアソコ

こういう広告や雑誌のそばにいと、より痴漢のターゲットになりそうなので、さけて乗ったり行動してます。別世界と思って気にしないようにしていますが、人類は成長すると(わたしたちも大人になると)こういう世界に入っていくのかというのが不思議でなりません。」



《「週刊大衆」(双葉社)の中吊り広告の例》



《「週刊大衆」(双葉社)》



《「週間アサヒ芸能」、「アサヒシークレット」(徳間書店)》

### (イ) ウォッチャー調査報告 (考察と対応)

(最高代表男性より) 数年前の朝の早い時刻、いつもは乗らない地下鉄(東京メトロ)に乗ろうとしたときのことである。階段を下りてホームに出たとき、電車がちょうどホームに入ってきたが、目の前の車両が女性専用車両であることに気づいたので、慌てて隣の車両に乗った。そこで安心し、ふと上を見上げると、まあ何とも言えない性的文句で溢れた「週刊大衆」の中吊り広告が目に入ってきたのである。鉄道事業者と成人向け雑誌の出版社の結託の仕方は巧妙で、多数の男性が飛び乗ってくるのが想定される車両に、こういう広告を持ってくるのである。

「女性専用車両」。今でも議論が続いている「二元的性的区別」の是非の典型である。

まず、ご相談女性たちが誤解している、あるいはそれ以上に誤って認識していることがある。そもそも女性専用車両には法的拘束力はなく、鉄道事業者が男性に協力を求めるものにすぎないのだから、男性は乗車できるのであり、「男性に対して申し訳ないな」と思う必要はない。また、「私はその男性は乗ってもよいと思ってしまいました。」という思いも、誤解から来る親切心で、実際は「いつでも男性は乗ってもよい」わけである。

しかし、この女性たちの心理は、それはそれで意義ある親切心であって、そもそも女性専用車両をめぐる女性たちの間にも意見の相違があることを示している。女現研唯一の男性スタッフである私のような男性の側からしても、やはり男性が一人もいない女性専用車両に自ら立ち入ろうとは思えない。女性専用車両廃止のプラカードを掲げて乗り込んでいる男性集団の行動は、男性から見ても気持ちのよいものではないのである。

これらは全て、「女性専用車両」を正しく「女性優先車両」や「女性いたわり車両」といった名称にしなかった政府と鉄道事業者のうまい戦略のせいである。しかし、では他の車両では女性に優先的に席を譲ったり女性をいたわらなくてよいのかという問題が出てくる。ならば、女性専用車両を廃止して、どの車両でも痴漢への監視を強めるほうがよいのではないかという意見も、当然出てくる。私はまさに、このような意見の持ち主である。

女性専用車両の設置によって、設置路線と未設置路線との間で痴漢被害の優位な差が出

たか、あるいは女性専用車両では痴漢被害が起きず、かつ他の車両でも抑止効果により痴漢被害が減ったか、あるいは、女性一人あたりの男性の数が相対的に増えた計算になる他の車両では痴漢被害が増えていないか、それらを示すデータは一つも出ていない。

宗教団体の項でも触れたように、日本の女性専用車両は、公明党とその支持母体である創価学会が深く関わってできた男女隔離策である。自公連立政権発足以来、国土交通大臣および国土交通省の重要ポストを公明党員が握ってきたことは、偶然ではない。

私とて女性専用車両に無理矢理乗ろうとは思わないが、乗ってしまった男性を罵る女性は無教養であると断じるほかない。私が見かける限り、とりわけ中年・高齢女性たちがそのような言動を行っている。

冒頭の私個人の経験一つを取っても分かるように、そもそも、国も鉄道事業者も出版社も、痴漢対策を本心から実行する気はない。これこそが本当の結論であると思う。「女性専用車両」の設置とは、痴漢対策を一応していると見せかけるための巧みな施策であると、私は考えている。

有効な痴漢対策は、女性専用車両を廃止して痴漢加害者のみを正確に検挙することに力を入れるか、電車全部を女性専用交通機関とするか、どちらかしかない、というのが私の考えである。つまりは、痴漢対策は前者であるべきだと考える。

また、電車の中吊り広告やコンビニにおける成人雑誌販売も、全く無視できない性的問題を孕んでいる。先の中学生たちが勇気を振り絞って気丈にメモした大人たちの勝手な言動の世界は、見るも無惨な性状である。甚だしく性的関心を煽る文言を最も多用していた「週刊大衆」が電車の中吊り広告を取りやめたのは、ごく最近、2015年4月のことだ。しかし、成人雑誌は、現在も中学・高校生の目に入るところに売られている。欧米では基本的に、単に18禁コーナーに置くのではなく、間仕切りが設けられている上、ほぼ21禁である。

成人向け雑誌の出版社は、先のような生徒たちの声に耳を傾けるべきだろう。

## (2) カワイイ区

### (ア) 女性からのご相談事例

#### (a) 女性からのご相談事例 1

「福岡市にあった仮想の区であるカワイイ区を担当していた公務員の女性です。カワイイ区は、今は廃止されましたが、当時からアホらしいと思っていたので、苦痛で仕方ありませんでした。AKB48の篠田麻里子さんの発案で(のせいで)、こんな幼稚園みたいな女の子チックな仕事を何十人かの女性公務員がやる羽目になりました。福岡市の高島宗一郎市長が推進したのも原因で、本当にふざけていると思いました。ピンク色の飾り付けもやり

ました。アホアイドルとアホ市長が同時に登場すると、ろくなことになりませんね。福岡市民とその血税をバカにしたバカ事業に、私も協力してしまったのです。その後いきなりカナダ人女性が区長となり、二年後に区がつぶれました(苦笑)。私はこの件で、男女の差異、そして女性という性そのものが国家の商売にも利用されるほどの価値を持つもので、その根源を作っているのは女性自身、しかもアイドルのように、自分をカワイイ女性の代表だと思っている哀れな女たちだという皮肉を知りました。」

#### (イ) ウォッチャー調査報告(考察と対応)

福岡県福岡市カワイイ区。私たちも当時は、無礼ながら笑わせていただいたものである。この件について、私たちから述べることは何もない。ご相談下さった女性公務員のおっしゃる通りである。その言論の言葉と手法がふさわしいかどうかは別として、このような良識ある女性公務員の存在は、日本の未来を明るくするだろう。

### (3) 公衆トイレの男女区分解消策

#### (ア) 女性からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

##### (a) 女性からのご相談事例 1

「わたしは、ある女性人権団体に属していましたが、上の地位にある女性運営陣が、公衆トイレの男女間の壁を(物理的な意味で)なくすべきだというような主張をはじめたので、退団しました。フリーセックスを目指す女性、東大の女性教授、ヤマギシ会の幹部女性などが入団している団体です。男女平等というものは、人によってかなり差があると考えていますが、今の女性の解放運動は行き過ぎていると思うことが多々あります。」

#### (イ) ウォッチャー調査報告(考察と対応)

(最高代表男性より) 以前、男女共用の表示のある公衆トイレに、ドアをノックして応答がないことを確認した上で入ったところ、女性二人と鉢合わせになり、咄嗟に「すみません」と誤ったことがある。最初のドアを入ったそのさらに先に手洗い場と個室が並び構造で、うち一つの個室トイレのドアが開いて、女性が一人出てきたところだった。また、もう一人はすでに手洗い場で水を流しつつ、鏡を見ながら髪を整えていた。二人は、自分たちがドアを開ける音や水を流す音で、私のノックが聞こえなかったようだ。私は、最初のドアが個室のドアと勘違いした上に、さらにそれを入った時点でも、女性たちの空間(女

子トイレの手洗い場)に侵入したと判断して、謝ったわけだ。

性別を男女の両極に分ける男女二元論に批判的な風潮は、月日を追うごとに高まるばかりで、LGBT用の公衆トイレも日本で誕生し始めた。しかしそれならば、そもそも男子トイレと女子トイレという区別がおかしいのではないかという議論が出てくることは、容易に予想がつく。但し、この公衆トイレの壁不要運動は、日本では海外ほど盛んでない。また、ベルリンの壁ならぬ公衆トイレの壁の崩壊が実現するとは思えない。

ところが、ご相談下さった女性が言及しているような団体については、話は別である。このようにいくつかの団体の幹部女性たちに、私たちはお話を伺ったことがある。「多くの日本女性は、やはり女子専用の公衆トイレの存在に大きな意義と安心感を抱いており、その文化は動かしがたいのではないか」という旨を述べてみたが、女性の権利回復とは、女性の生理現象・排泄・トイレの権利を含めた全ての心身の権利の回復であるという見解を示された。

私には、やはり理解が難しいのであった。

## 5. 社会人女性の性生活の多様化 (未婚・晩婚・生涯独身時代における女性の性欲)

### (1) 女性からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

#### (ア) 女性からのご相談事例 1

「わたしは特に結婚願望がありませんが、一方で性的なことは好きで、欲求をオナニーで解消しています。不特定多数との行為にはほとんど関心はありませんが、数名との経験があります。最近、別のことで疲れがたまっていることなどから、人との性行為は面倒と感じるようになり、オナニーばかりしています。いわゆるアダルトグッズなども買って使用するようになっており、こういう、他人のいない性、という毎日が一番安心できる状態になってしまっています。」

#### (イ) 女性からのご相談事例 2

「私は、ネットで販売されているアダルトボイスというジャンルの活動をしています。自慰やトイレをしながら性的な言葉を話したり、エッチな小説を読んだりして、それで収入を得るパターンです。体や下着などを売るわけではなく、エッチな声や音を売るだけで、危険性も少ないので、続けています。今はとても充実しています。」

#### (ウ) 女性からのご相談事例 3

「わたしは、彼氏はいませんが、仲良くしている女子のグループ(女子会)に入っていて、その友人たちと飲み会や遊びをしたりするのが楽しく感じています。一方、将来結婚できるのかなと不安になったりもしています。少し性的なゲームやヌード系のおふざけが入ったりするときは、友人たちに性的な魅力を感じる自分もいます。もし今後そのことが確信できたら、女性と色々な関係を築きつつ独身でいる、というスタンスで生きていこうと考えています。」

#### (エ) 女性からのご相談事例 4

「私は援助交際をしています。相手は、学校の先生が一番多いですが、中には暴力団の人もいました。このような性格や行動からして、普通の結婚はできないと思いますが、そもそもあまり結婚したくないとも思っています。ただ、親は昔ながらの人たちなので、結婚を勧めてきます。」

#### (オ) 女性からのご相談事例 5

「身近に、ほぼ寝たきりの男性と、手足の不自由な男性の方がいらっしゃるのですが、私を含めた複数の方で介護しています。私がお二人を介護するようになった時期は少しずれていますが、現在、私だけが介護させていただく日には、お二人それぞれに性的なお手伝いをしています。基本的にはマスターベーションのお手伝いですが、先日初めて、お一人に本番という形で行いました。ただ、金銭のやり取りはなく、お二人の人生や性の悲しさの話を伺っているうちに、私のほうが同情してしまい、無償でお手伝いをしたいと思ったのです。また、私自身が性行為が嫌いでない、ということもあると思います。これらのことを少し友人に話してみたことがあるのですが、とても非難されました。」

#### (カ) 女性からのご相談事例 6

「私は、森ガールのサークルに入っていて、女子ばかりで森や山に行くのですが、うち一人の女性が所有している山荘で、たまにヌードになってみんなでくつろいだり走り回ったりしています。森林の中でのヌード生活(森ガール生活)をととても楽しんでいます。」

### (2) 女子学生・生徒からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

#### (ア) 女子学生・生徒からのご相談事例 1

「わたしは中学生ですが、性的なものに出演する世の中の同性（女性）について悩みがあります。わたしとしては、AV やエッチな画像は、だいたい男性が連れてきた女性がしかたなく出たり写ったり、そこでレイプされたりするもので、だから慰安婦問題などが起きるのかと思っていました。でも、そういう AV や画像を男子に見せてもらったところ、出ている女の人は笑っていたり、気持ちいいと言って特別な状態に行ったりしているように見えます。（わたしもオナニーをしてみますが、わたしの気持ちいいと思う状態がその特別な状態か、これがオナニーかはわかりません。）

かなり多くの女の子が自分で AV や画像に応募して出ているというのを知って、とてもショックを受けています。わたしはそういう気持ちになりそうにないし、そういう気持ちにならない一生を送りたいと思っています。女性によって、こういう性的なものについての考えがどのくらい違うのか知りたいし、いろんな女性とわたしとを比べてどういうふうに感じられますか？」

#### (イ) 女子学生・生徒からのご相談事例 2

「都内の高校（女子校）に通う女子です。先日、友だちがわたしを含めた数人に、いつもわたしたちが乗っている電車の中で撮影された AV があったと言ってきました。おそろおそろ見ると、なんとなく見覚えのある車両の感じでしたので、たぶんそうなんだと思います。その友だちによると、電車系の AV は、そういう撮影セットのあるスタジオで撮影し、音も入れていることが多いと言っています。ただ、時々本物の電車を使って撮影することもあるとも言っています。その友だちは、気持ち悪がってもいますが、半分は AV に興味を持ち面白がっている気もします。わたしは、こういう AV を気持ち悪いと思っています。見ず知らずの男女が同じ空間でそういうことをしていると、鳥肌が立ち、とても嫌な気分になります。最近、このことが頭から離れず、話だけでもぶつけられればと思い、相談に来ました。」

#### (ウ) 女子学生・生徒からのご相談事例 3

「私の通っている高校の女の先生がエロい画像を持っていて困っています。その先生が自分のパソコンに女性の裸（一部は男性）の画像を入れていて、学校でも見ているのではないかとわさになり、男子数人と見たところ、そのようなものが私にも見えました。先生は結婚しておらず、どっちかという女性に興味があるのではないかということは、私を入れた一部の生徒で話していました。今回、男子に確かめてもらったことで、その可能性が上がりました。男子は勝手に先生のパソコンを起動して、イタズラで一部の画像を消したりしたので、本当はいけないことです。一部の男子は、これからも自分たちはこっそり



見られるようにしておくために、ほかの口が軽そうな先生や生徒にはわざと言わないでこうとふざけて言っています。それも私としてはイヤです。私は、口がかたいと思われているようです。でも、先生がそのようなものを学校に持ち込んでいることがまず恥ずかしいです。そうしたところ、最近トイレ中の女性（女子）の画像もあり、私たちを撮影した画像も含まれている気がしてます。これも男子から聞いて、結局友だちと一緒に見てしまいました。こんなことで申し訳ないですが、今後どうするのがいいかアドバイス頂けないでしょうか。」

#### (工) 女子学生・生徒からのご相談事例 4

「告発します。私は女子美術大学に通う女子学生です。友人が多くいるムサビ（武蔵野美術大学）の学園祭に行った時のことです。この大学では、例年、男神輿と女神輿を合体させる（性的な意味で、です）行事があり、男子学生が勝手にやっているものではなくて、女子学生も同じくらいの数（と勢いと肌の露出度・・・）で参加します。近隣住民の反応は笑ったり怪訝な顔をしたり、いろいろですが、基本的には内心あっけにとられているでしょうし、近所迷惑になっていると思います。

行事に向けては、かなり前々から準備・製作が始められ、男子学生は男性器、女子学生は女性器をかたどった巨大作品を作ります。それを当日、男女別に担いできて、最後に合体させます（実際、貫通させます）。

で、そこまでは仕方がないというか、人それぞれで、私の趣味ではないなと思うだけなのです。が、その日、行事が終わったあと、その女神輿の担当の女子学生たち（私やムサビの友だちよりは先輩）から、性行為のイベント（男神輿担当の男子学生や、他のいろんな男性たちと乱交するイベント）に誘われました。

自分でも信じられないくらいの勢いで怒って断ったので、相手の女子学生たちもそれ以上誘ってはきませんでした。でも、あのイベント自体が、最終的にそういうこと（女神輿担当の女子学生たちがほかの女子学生たちを性行為に誘うこと）も目的としたイベントでもあるということは知ってもらいたいです。」

#### (2) ウォッチャー調査報告（考察と対応）

男性の生涯未婚率が女性のそれよりも高いことは、どの政府や民間調査機関のデータでも確認できるが、女性の生涯未婚率も確実に高まっている。しかも、女性の生涯未婚率（予測）を引き上げているのは、すでに結婚している現在の高齢女性ではなく、今後も未婚と思われる現在の若年女性である。

最近はおうちのもとにも、「結婚する気はないが、性行動は取っていたい」という若年女性からのご相談が寄せられる。その性行動の内容は、マスターベーションから、アダルト

ボイスの販売まで、多岐に渡る。

もっとも、「婚期を逃してしまい、性的欲求がたまっている」というご相談や「結婚する気も性への興味もない」というご相談のほうが多いのだが、ともかく若い女性の間では、マスターベーションが一番楽しい、セックスは鬱陶しいという意見がどんどん増えてきている。

しかし、その一方で、独身のまま不特定多数の男性と関係を持つ女性も増えている。時には、不特定多数の女性と関係を持つ同性愛女性もいる。

「一人の男性と結婚し、家庭を築き、その夫と心理的・性的関係を続ける」というオーソドックスなパターンが、どんどん抜け落ちていっている時代なのである。

また、自分で性行動を取ることのできない体の不自由な男性（時には女性）に介護者の女性（時には男性）がどのように向き合うか、その方針もある程度はその女性自身と社会全体とが決めていかなければ、到底片付けられない問題に発展するだろう。

ちなみに、マスターベーションをお手伝いされている女性の例には、全く違法性がなく、この女性のご自分を卑下する必要もないし、他の女性から非難されるいわれもない。寝たきり男性・障害者男性への女性の思いやりと女性の性行動とは、表裏一体、不可分のものなのである。

それよりも、公共の場所や教育現場に、違法なアダルトコンテンツが持ち込まれていることが、極めて問題である。女性自らそれらに出演しているのならば、私たちとて何の反論も持っていない。しかし、通勤・通学女性や女子大学生・高校生・中学生が知らないうちに性のターゲットとなっているケースが後を絶たない。

性被害女性からのご相談については、今後とも最大限の対応をしていきたい。

## 6. 人工妊娠中絶の是非

### (1) 人工妊娠中絶と我が子への虐待・殺人との関係

日本は人工妊娠中絶大国でもある。とりわけ、40代以降の（とりわけ、閉経したと勘違いした）女性に対する人工妊娠中絶が多くなっている。年齢別の人口比に対する人工妊娠中絶の割合は、10代～30代の若年女性のほうが高いが、少子・高齢・晩婚化により、今後は中年・高齢女性の人工妊娠中絶がいっそう増えると予想されている。

母体保護法に基づく人工妊娠中絶は、殺人罪や堕胎罪に問われない。しかし、人工妊娠中絶や子殺しそのものの是非は、法律の規定とは直接関係がない。不要だと見なされた子は、乳幼児・児童・生徒にまで成長していても親に虐待され、殺害されているし、法律違反でなくとも全ての人工妊娠中絶は殺人や堕胎であると考えられる人もいる。

私たちのもとには、人工妊娠中絶の経験のある（あるいは、その予定である）女子大生・

女子高生や中年女性からの相談も寄せられる。あまりに多いので、ここには挙げきれない。

そのほとんどの女性は、上記のような、人工妊娠中絶と虐待・殺人との関係を一切考えたことがないにもかかわらず、「我が子に申し訳ない」、「水子が天国に行けていることを願う」といった言葉は発するのである。

逆に、これらのことを考えに考え、世の人工妊娠中絶の事情を勉強しすぎて、妊娠の可能性のあるセックスという行為自体を一生涯行わないことにしたため、マスターベーションのみが唯一の性行動となっている若年女性も増えている。

## (2) 胞衣・恵那の行き着く場所

### (ア) 女性からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

#### (a) 女性からのご相談事例 1

「わたしは高校生のときに妊娠しましたが、結局墮ろしました。子どもへの謝罪の気持ちから、それ以来ずっと人の命について調べています。ネットで、胞衣(えな)という言葉を見つけました。胎盤などを指す名前だと知りました。胞衣を専門に処理する胞衣工場というのがあって、そこにも見学に行きたいと思っています。子どもの本体部分に命が宿るのはもちろん分かりますが、こういった胞衣(えな)などにも人の命は宿るのでしょうか。わたしの体のどこからどこまでがわたしで、どこからどこまでが子どもだったのでしょか。今でもあの子と一緒に生きていきたいと思っています。」

## (3) ウォッチャー調査報告(考察と対応)

さて、人工妊娠中絶関連のご相談の中でも、珍しい質問が含まれるご相談があったので、ここに紹介しておく。

私たちは、この女性のご質問は、人工妊娠中絶経験女性のご質問の中でもとりわけ美しいものであると思う。我が子の生命との向き合い方が、根本的に他の平均的な女性(中絶経験の有無を問わず)とは異なるからである。

胞衣・恵那(えな)とは、伝統的には、出産時に(後産として)、または人工妊娠中絶時に排出される胎盤などの付属物(胎児以外の部分)を指す。実際の出産時には、「胞衣及び産汚物取締条例」(東京都)、「胞衣産汚物取締条例」(京都府)といった名称を持つ各自治体の条例に基づき廃棄処分が行われる。許可された業者のみがこれを行うことができる。

しかし、先の女性は、母子の生命の境界線について問うている。よい質問である。ただ、この女性は「形あるものは、それ自体が靈魂であり、生命であり、また生命の遍在である」

という考えを持つ哲学者が世にいることを知らねばならない。私たちがそう考えているのである。法律とて、元々存在する母子の生命の境界線をもって定められたものではない。元々茫漠と遍在している生命なるものに法律が便宜上の境界線を与えたのみである。

だから、この女性の質問に対しては、「どこからどこまでというものは無い」と答えるほかない。しかし、子どもへの謝罪の気持ちからこの質問に至ったということは、この女性が母子どうしの生命の混合と遍在とを本能的に理解し、我が子を今でも愛していることの証左である。この女性は、この生き方でよいのである。

私たちはこの女性に、そう回答を送った。

## 7. 高校・中学校の校則・規則に見られる女子への性的・身体的制限事項

### (1) 下着の色の制限 (白系) について

#### (ア) 女子生徒からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

#### (a) 女子生徒からのご相談事例 1

「私の高校 (●●高校) では、下着の色は白という校則があります。実際は校則 (生徒手帳) には「下着」という言葉は書いてありませんが、別に保護者と生徒に配られたプリントや冊子に厳しく書いてあり、守らないといけなくなってます。以前、少しベージュやピンク系の色の入った下着を着て (はいて) いったのですが、女の先生によるチェックのときに叱られ、次は白で来ないと脱がすと言われました。社会に出たら、こんなことってあるんでしょうか? 挨拶ができるとか、勉強をおろそかにせず、困っている人を助けられる人になるなどのほうが大事なことで、下着の色を守ることが人間の成長になるのか、すごく疑問に思っています。ご意見いただけませんか?」

#### (b) 女子生徒からのご相談事例 2

「わたしの通っている高校では、下着、というかあらゆるインナーの色は白でないといけない決まりがあります。女性の下着というと、白よりも肌色・薄いピンク系統のほうが自然だと自分としては感じるし、女子高生でも薄いベージュ系 (セーラー服やブレザーに透けないくらいの色) はよいと思うのです。真っ白というのは、黒や赤の下着やランジェリーと同じで、何か性的に狙っている感じがします。でも、抜き打ち調査があるので、白を身につけています。ただ、調査する先生は、女性の先生ですが、男性のときもあります。

わたしが思うのは、この“下着は白”ルールは、男性の先生が女子高生の白い下着姿を見るために作られたルールで、本当はベージュ系がいいのを、ねじ曲げてセクシーなルールにしているのではないかということです。実際、みんな友達どうしてそう噂しています。男性の先生の目線も実際気持ち悪いし、学外や家族外で相談できる大人がほしくて、メールさせていただきました。」

### (c) 女子生徒からのご相談事例 3

「●●高校の生徒です。学校で、髪は黒、下着やインナーやシャツは白と決められているのですが、守っている生徒に対しても、男の先生たちがしゃがんでのぞき込んだりしてチェックしてきます。薄いベージュ程度のもので、引っかかると、基本は女の先生のところに連れて行かれて、脱ぐように言われます。私も二回脱いだことがあり、一回は、とくに怪しいと私たちでうわさしている男の先生の前でした。友達はなぜか特定の男の先生にばかり当たる（その先生に性的好意を持たれていると思います）ので、助けたいです。没収された私の下着は、確認する限りは女の先生のところに行っただけで返ってきた（ほかの男の先生のカバンとかに入れて持ち帰ったりはされてない）と思いますが、友達のは長い期間返ってこないことがあります。もしかしたら男の先生のカバンとかにあるかもしれません。どの生徒の下着も返ってくる場合が多いので、今回も返ってくると思いますが、みんなも不安がふくらんでしまい、先生の自慰行為などに使用されてから戻されているのではないか、などもありえるので、自分どころじゃなく、友達のことが心配です。もちろん、その女の先生も怪しいです。友達を守る方法があれば、アドバイスを頂けないでしょうか？」

### (d) 女子生徒からのご相談事例 4

「わたしは高校で、下着の色が白かどうかを検査する場で、明らかに自分では許される範囲の白だと思っていたのが、白でないと怒られ、脱ぐことになりました。先生は男女の先生が一人ずつだったのですが、なんとか男性教師のほうにはお尻側を見られるだけで済んだと思います。ただ、脱いだ下着を両方の先生にじっくり見られ、二人が、色付きだね、と言って、お互いに笑いながらウンウンうなずいていたのがショックで、学校に行くのが苦しくなっています。はっきり言って、色はほぼ付いてないです。男性教師のほうは、わたしからはチラッと見えたのですが、下着の裏側あたりを手や指でこすってからわたしに返したと思います。本当に苦しいです。女性教師も、男性教師のそういう行為を面白がって楽しんだんだと思います。●●高校です。先生は、●●先生と●●先生です。できれば、まずは親や高校には言わず、独自調査のようなことはできませんでしょうか？ 親や高校に言いたくないのは、親やほかの先生や友だちを悲しませたくないのと、万が一の裏切り

(わたしが性的に誘ったのではないかと親やほかの先生から疑われること)を防ぎたいからです。」

### (イ) ウォッチャー調査報告 (考察と対応)

「下着は白でなければならない」。このように校則や付随の規則、部活動の部則などで定めている高校・中学校は少なくない。この校則・規則は、女子校でも男女共学校でも見受けられる。しかし、男子の下着の色については規則を定めず、女性の下着の色(白)のみを定めている学校も多い。

女子校においては、基本的には女性教員が制服の上から簡単に目視やその子の雰囲気を確認する程度である。いわゆるハイレベルの伝統ある女子校でこの校則がある場合は、女子の教養・品性の一環として定めており、女性教師以外が確認することはまずなく、実際に確認そのものを行わなければならないような品のない格好の生徒も確かに少ない。

しかし、一般の女子校においては、中には男性教員がスカートの中をのぞき込んだり、制服の上から体を触って下着を透かしたりして確認する例もある。実際には、ハイレベルとは言えないながら品のない格好の生徒が特にいるわけでもない女子校においても、スカートを脱がせたりめくらせたりする下着チェックが行われている。男女共学校においても、同様の規則がある場合、男女両方の教員が確認を行うことが多い。

ここで注目すべきは、女子生徒たちが持っている直感、つまり「この校則そのものが、実は男性教師や同性愛の女性教師の性的関心(と、それに暗に加担して楽しんだり、男性教師に媚びを売ったりする女性教師の気持ち)を満足させるため、そして、教師らが指導と称して女子生徒に触れるために、設けられているのではないか」という疑いである。これには明らかに一理あって、「下着は白」ルールのない女子高校の生徒の下着の色を我々が調べたところ、むしろ真っ白よりも少し桃やベージュの色味のついた白が最も多く、次いでそれよりは色の付いたピンク・黄色・ベージュ系のものが多かった。また、冬場など明らかに制服の上から下着が見えない場合や、地味なタイツやストッキングが許されているような高校では、下着の色に関する規定は存在しないところが多かった。

従って、「下着は白」ルールは、そもそもチェックすること(女子の下着を見ること)のためにあるという彼女たちの着眼点は、決して的外れでも嘘でもないだろう。あるいは、このルールを設けた時点ではその目的でなかったとしても、のちのちそれを悪用して女子生徒の下着をのぞき込むような教師は出てくると考えるべきだろう。

このような校則をめぐる性の問題は、私たちが頼りにしている女子高生ウォッチャーたちからの報告が極めて有用であるので、今後とも情報提供をお願いしている。ご自身が被害者である場合もあれば、友達が被害者である場合もある。ただし、該当のセクハラやわいせつな言動、明らかな性犯罪を行った教師に対して直接訴える前に、親御さんに相談するか、あるいは親御さん(や自治体、警察)にも言いづらいなら、私たちにご相談いただ

くように伝えている。

## (2) 髪の色、髪型、化粧、スカート丈、ソックスの長さなどの制限について

### (ア) 女子生徒からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

#### (a) 女子生徒からのご相談事例 1

「私の高校では、髪は黒でなければならないルールがあります。もちろん、そうでない高校のほうが少ないというか、ほとんどないと思うのですが、問題は私の髪が生まれつき茶色がかっていることです。何もしていないのに、ある先生からは染めただろと言われて、とてもつらい思いをしました。髪がそんなことなら、足も開いたことがあるだろう、というようなことも言われました。これは、茶髪にするような女子生徒は、性的な行動も早くて経験があるだろうという意味だととらえました。ただ、私は髪を染めてません。愚痴を言う場がほしくて、メールに書き殴ってしまい、すみません。」

#### (b) 女子生徒からのご相談事例 2

「学校で、髪を染めてはいけない、髪を団子にしてはいけない、スカートの長さはこう、などの決まりがあります。わたしも守っているのですが、みんなを後ろから見ていてロボットみたいだなあと感じることもあります。私もロボット化して卒業するのも、なんて思います。ヤンキーみたいな髪や服装、ミニスカートはいけないのはわかるけど、みんな違う髪質なのに、同じ髪型で生きないといけないのか疑問です。学校への不満です。大学や企業は、若者に対して個性を大切にと言っていますよね。大人の言うことは矛盾しているのではないのでしょうか。高校を卒業すると、いきなり個性が大切になるのでしょうか。とても不満です。たとえば、高校生の間は、病気になるときもみんな同じ病気にならないといけないようなことになりますよね。」

#### (c) 女子生徒からのご相談事例 3

「わたしの通っている高校では、スカートの丈やソックス（基本冬はハイソックス）のルールが細かくあるのですが、困ったことに、ある女の先生が、気に入った生徒には短め（露出多め）、気に入らない生徒には長め（露出少なめ）の指示を出している気がします。その先生はレズっぽいところがあるというか、“今日はちょっと短くしちゃって、かわいいんだ

から！！”、“そんなに早く女になっちゃダメよ！！”と気に入った生徒にしゃべりかけます。ほんの数センチとか数ミリの感じですが、私の友達も噂しているので、ほぼ間違いな  
いです。結果、校則を守っても、目を付けられると、もうちょっと短くても OK と言われ  
たり、短すぎると叱られたりして、意味がないです。バカバカしいです。スカートやソッ  
クスの丈を調べる行為も、やたらとスカートやソックスを触ったりめくったりしてくるの  
で、すごくイヤです。最近入ってきた男の先生も、似たことをしてくるのですが、元々い  
るその女の先生の変態さがまだ目立っている感じです。高校は、●●高校です。」

#### (d) 女子生徒からのご相談事例 4

「私の通っている高校（●●高校です）では、ほかの高校と同じで化粧禁止なのですが、  
化粧をしても怒られない子と怒られる子がいます。化粧してないのに、したろ！と疑わ  
れて傷ついた子もいます。化粧をしても怒られない子は、それを指導する担任の先生や主  
任の先生（男）の腕にタッチしたり、女の先生の前では控えめになったりして、怒られな  
い女の雰囲気うまく作っている子です。その女の先生の一人は、化粧しても素地（生地  
＝肌）がダメな女はダメということを言っている先生なので、とても気分が悪くなります。  
肌が比較的キレイな子でも、あまりしゃべらず暗い子は、その先生たちからは好かれてい  
ません。こうやって、大学や就活の面接でも、女は持っている武器（セックスアピール）  
の度合いによって受かる受からないが決まっていくのかと思うと、悲しいです。」

#### (イ) ウォッチャー調査報告（考察と対応）

髪の色、髪型、化粧、スカート丈、ソックスの長さなどの制限についても、性に密接に  
関わる問題として、女子生徒たちから相談を受ける機会が多い。

これらについて、それなりの校風や一体感を出すために制限を設けること自体は、特に  
問題はないと私たちも思う。

しかしながら、当の教師のほうでこれらを守らせる気がないという例に遭遇する機会が  
相当増えてきた。生徒によって許可・不許可の基準を平気で変えるのがその典型である。  
この点は、先の下着の色のルールと同様に、そもそも指導と称して、女子生徒の髪や顔、  
脚部などに触れるためにこれらのルールを設けたのではないかと疑われても仕方がないだ  
ろう。実際に、髪の色や髪型を調べる際には、髪を触って確かめる教師は甚だ多く、化粧  
の有無についても、顔を近づけて調べるのである。スカート丈やソックスの長さについて  
も、脚に触れることになるし、意図的に触れるような教師もいる。

私たちが女子高生ウォッチャーにお願いしていることは、先の下着の色に関するお願い  
と同様である。教師に直接相談すると、ほぼ必ずと言っていいほど、学内で無かったもの  
として片付けられる。外部に相談したり、ネットに投稿するのが、教師に対する最もよい



忠言になる。

## 8. 女子高校生・女子中学生という性的付加価値

### (1) 女子高生・中学生の制服（セーラー服、ブレザー）やスクール水着、ブルマー、下着などに対する性的興奮やそれらの売買について

#### (ア) 女子生徒からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

##### (a) 女子生徒からのご相談事例 1

「最近インターネット上では、女子高生や女子中学生の制服フェチやセーラー服フェチなど、色んな制服のフェチを扱うサイトがあります。一時期は、女子生徒の側もブルセラなどで制服を売っていたと思います。わたしの友達にも、少しズっぽい子などは、友達の制服姿に性的に興奮するそうです。友達どうしの関係では笑ってすませられますが、男の先生からもそういうことを言われたときは、気持ち悪いです。そもそも制服じたいが性的興奮を発するものなら、制服をやめて私服にするのも手だと思うのですが、日本では私服の高校や中学校は増えないのでしょうか？」

##### (b) 女子生徒からのご相談事例 2

「日本の高校や中学校は、今でも制服が多いと思います。外国でも一流の学校は制服があると思いますが、とても似合っている気がします。日本の場合、女子の制服は、ロリコンなどの対象となり、着古した制服は価値が高く、今も色んなところで売られています。自分たちの制服や制服姿がそんなふうに見られていると思うとショックです。」

##### (c) 女子生徒からのご相談事例 3

「昔高校生のころ、ブルセラショップに自分の制服や下着などを売っていました。自分以外は知らない過去の秘密ですが、社会人となって大学生や新卒の若者などを指導している今、本当に自分は罪深いなと感じています。」

##### (d) 女子生徒からのご相談事例 4

「わたしは、親にバレないように、時々使用済みの下着を売っておこづかいにしています。それなりに評価のある女子校なので、誰もわたしがそんなことをする生徒だとは思っていません。専門のお店に売ることもあるし、個人の男性や学校の先生に売ることもあります。ただ、お礼にいい成績をあげる、大学を紹介してあげると先生から言われたとき、こういうことで人生が有利になるのはまわりの友だちに悪いなとも感じた自分がいます。」

#### (イ) ウォッチャー調査報告 (考察と対応)

「ブルセラ」なる語は、今ではほとんど聞かなくなったが、それは単に「ブル(ブルマー)」を採用する学校が減少したことにも起因している。実際は、セーラー服、ブレザー、スクール水着、下着、スクールバッグなど、およそ女性生徒が身につけたり持ったりするものは、今でも売買が行われている。

憂慮すべきは、自校の男性教師や同性愛の女性教師と生徒との間で譲渡や売買が行われているケースがあることである。この場合、制服や下着を渡した女子生徒には、成績上の優位が与えられることがある。このケースについては、他の女子生徒の生活と人生をも破壊する行為であり、私たちからはすぐに個別に対応している。

また、専門店に集められた女子生徒らの制服や下着は、個人が買うだけでなく、AV女優が着るなど、AV撮影にも多々使用されている。ある女子生徒は、AV撮影で使用された自らの制服を取り戻すことに成功したが、この生徒は、制服を売ることには抵抗がないにもかかわらず、このような流通ルートの仕組みを全く知らなかった。恐ろしいことである。

制服そのものをやめればよいという女子生徒の案は、決して無視できない。女子高生・女子中学生が画一的に着用するものとしての制服が、他の衣服に比べて特別に性的な意味を持ってしまっている以上、社会人と同じく、少なくとも個々の家庭で用意した大人しい色の服装を学校の衣服としてしまう策は、制服売買問題の多くの部分を解決するかもしれない。

#### (2) 女子高生・中学生の排泄物、唾液、涙などに対する性的興奮やそれらの売買について

##### (ア) 女子生徒からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

##### (a) 女子生徒からのご相談事例 1

「私は、自分の排泄物、要はオシッコやウンコを買い取ってくれるところに売って、お小遣いにしています。罪悪感はありますが、勉強がおろそかになっていないのと(成績は、

まあいいほうです)、自分のものが自分のお金で買えるようになったので、よいと思っています。オシッコやウンコの採取は、親やお姉ちゃんにバレないようにやっていますが、臭い関係で、学校で採取するようになりました。朝、どちらも我慢するか、最小限だけ出して学校に行き、帰る直前に我慢してたやつを出して採取してます。」

## (b) 女子生徒からのご相談事例 2

「以前からわたしは尿や唾液や涙を、とある男性の先生に差し上げたり売ったりしていましたが、もうやめたいというと、卒業できなくなるかもと脅されてしまいました。わたしがすべての原因なのですが、誰かに助けてほしい気持ちでいっぱいです。」

### (イ) ウォッチャー調査報告 (考察と対応)

女子高生や女子中学生の排泄物や分泌物の売買についても、前項の制服や下着の売買と同じく、極めて憂慮すべき性の問題である。むしろ、女性の体から直接「提供」される排泄物や分泌物、そして、それらが付着している下着は、買う側にとっては高い価値のあるものとなっており、いくらでも高額で買われる傾向にある。

女現研では、各校の女子高生ウォッチャーからの報告に頼っているが、実態が全てつかめているわけではない。ほとんどの場合、「友だちや同級生が排泄物を売っていると思われる」という程度の報告になってしまう。確実な報告といえば、女子高生ウォッチャー自身が売った場合のみであるが、その場合は当然私たちから注意し、ウォッチャーを下りてもらうことになる。

また、排泄物や分泌物は、いずれ跡形もなく消えるものであるから、回収するという概念そのものがほぼ不在・不可能である。運がよければ取り返すことのできる制服や下着とは大きく異なるのである。

## 9. 女子学生・生徒や女性教師の性の提供および妊娠・中絶 (対男性教師や男子学生・生徒)

### (1) 女子学生・生徒からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

#### (ア) 女子学生・生徒からのご相談事例 1

「大学でお世話になっている先生との間に子どもができてしまいました。先生は未婚ですが、元々私と結婚するわけでもなく、私もずっと相手のいない寂しさから、関係を続けて

いました。産む予定はありません。薄々子どもができれば結婚してくれるのではと思っていたのが間違いでした。」

#### (イ) 女子学生・生徒からのご相談事例 2

「高校の先生から性的関係を求められ、はっきりと断らなかったの、ずるずると性行為に至り、何度かの後にわたしは妊娠してしまいました。結局、中絶しました。両親には、たくさんの男子と関係を持った、相手（父親）が誰かわからないと言ったので、今でも両親は知りません。ただ実際は、わたしの相手はほぼ先生だけで、時期的に父親は先生だと思っています。」

#### (ウ) 女子学生・生徒からのご相談事例 3

「担当教授から、セックスをしてもらえれば単位は保証するということを言われ、わたしも単位のことが心にひっかかっていたので、数回セックスをしました。それから、いろいろなことがうまく進んでいるのですが、まわりの友人たちが自分の力で努力して道を歩もうとしている姿を見て、日々がつらくなってきています。その解決策として、わたしは友人にもセックスによる単位獲得を勧めようというひきょうな手を考えたことがあります。それは結局友人には言っていませんが、とても気まずい日々を過ごしています。」

### (2) 女性教師からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

#### (ア) 女性教師からのご相談事例 1

「私は高校教師ですが、ある時教え子の男子生徒と関係を持ち、妊娠し、中絶しました。独身ですが、結婚願望はなく、元々性交がかなり好きだというだけです。身勝手かもしれませんが、私自身は、どうしても性交がしたいという自分にかかなり悩んでおり、教育者として失格だとも感じています。」

#### (イ) 女性教師からのご相談事例 2

「同僚の（同じ大学の）教授との間に子どもができ、今は私一人で育てています。私自身は助教ですが、これからこの大学で経歴を積んで上に上がることになると思います。教授は既婚者で、私の子が自分の子だとは知らないと思いますが、私としてはこのまま静かに育てていくつもりです。」

### (3) ウォッチャー調査報告 (考察と対応)

教師と学生・生徒との、あるいは教師どうし、学生・生徒どうしの恋愛や性的関係そのものを全否定する親や社会人が、世の中には存在する。むしろ、そういう人のほうが多いようである。しかし、法律違反でない行為は犯罪ではない。もしお互いに合意があって、不貞行為にも当たらず、仕事や学業にも影響を及ぼさず、(今いる、あるいはこれから生まれてくるだろう) 自分たちの子にも迷惑をかけない恋愛や性的関係であれば、どんな国民にも許されているのである。

だが、ここに挙げた教師・学生・生徒たちの関係は、どれも問題であると私たちは思う。今掲げた条件の、どれか一つ以上が欠けているからである。

2018年には、茨城県の公立高校で2016年に男性教諭に性行為をされ、妊娠中絶手術などで心身に回復不能な被害を受けたとして、元女子生徒が県と元教諭に損害賠償を求めて提訴していたことが分かった。これについても結局、教諭からレイプされたのか、しぶしぶ女子生徒も性行為を受け入れたのか、相互に同程度に合意の上だったのか、全く分からないままだ。女性向け匿名掲示板『ガールズちゃんねる』でも、女性たちが激しく議論していた。

男性教師と女子学生・生徒との性的関係では、男性教師のみが社会的制裁や罰則を受け傾向にあり、女性教師と男子学生・生徒との性的関係では、制裁や罰則の対象は一定しておらず、むしろどちらにもお咎めがないのが普通である。

私たちとて、このような女子学生・生徒からの相談(関係した相手は男性教師)と女性教師からの相談(関係した相手は男子学生・生徒)との間に、同様の差を設けて対応してしまいそうになるくらいである。しかし、男女間にここまで大きな差があるのは、先進国では日本のみであるから、今後時代の流れと共に変化していこう。

## 10. 学校教育(健康教育・体育)における裸や薄着の性的利用

### (1) 裸教育の性的利用

#### (ア) 女子生徒からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

#### (a) 女子生徒からのご相談事例 1

「わたしは小学校のころ、裸教育を受けていました。基本は上半身が裸ですが、全裸です

ることもいろいろとありました。ブルマーを履いて上は裸でブリッジするなど普通で、着替えなどは先生たちのいるところで普通に全裸になって着替えます。ただ、今でもそれがトラウマになっている理由は、裸そのものが問題だったのではなくて（子どもの側からすれば、まだ思春期になっていないので、性の意識がない）、“もう何年か経つとココが大きくなっていくんだよ”などと乳首やその周辺を先生から触られたりしたからだと思います。だから、このようなことが不可能になるよう、裸教育そのものを廃止すべきだと今は考えています。一時期は、性についての自分なりの考えが確立しなくなった時期があり、援助交際や AV 出演（素人もの）もしていました。園児の時代に触られたときの、心地よさと気持ち悪さの両方が、影響していると感じています。」

## (b) 女子生徒からのご相談事例 2

「幼稚園時代、裸で過ごすことである程度有名な幼稚園に通っていました。乾布摩擦や体操など、裸でやりました。園児だけでなく（園児は上半身裸か全裸）、男性教諭も上半身は裸になります。女性教諭は基本は衣服着用ですが、社会に出て社会人女性の常識を知った今思うと、わりと露出の多い感じで、着替えるときも園児と一緒にしておっぱいを出すなどはしていました。健康のためというよりも、先生や親たちが園児の裸をもてあそんで、健康になったとか、これで性的に成長できるなどと言って喜ぶだけのこんな裸教育制度は、やめたほうがよいと思います。」

## (イ) ウォッチャー調査報告（考察と対応）

裸教育は、現在の日本においても少なくない小学校や幼稚園、保育園で採用されている教育法である。中学校以上では極めて数が少ないが、幼稚園・保育園では、上半身を裸にさせるのみならず、プールなどで全裸にさせるケースも少なくない。小学校でも行われているところがある。

特に、過去の裸教育を受けさせられた多くの女子生徒、女子学生、社会人女性において、トラウマが見られ、PTSD や不安障害の発症も見られるが、一部の女性には逆に性欲や性的関心の亢進、性的倒錯の芽生えが見られるほか、我が子にも裸教育を受けさせようとする傾向が見られる。

裸教育を受けた久保田麻衣さんの体験談

（自らの裸教育体験を積極的に性的コンテンツとして扱っている例。）

<https://ameblo.jp/kubotamai/>

<https://blog.goo.ne.jp/kubotamai>

<https://kubotamai.amebaownd.com/>

裸教育を受けた男性については、あまりトラウマは見られないが、裸教育を担当している幼稚園の男性教諭のほうに、むしろ葛藤が見られるようである。

このように、裸教育についての反応は様々である。しかし、裸教育はよい教育であるとする価値観が、子どもではなく大人が（特に、いろいろな健康法を自分や娘に試したがる母親たちが）作り出したものであるのは確かなのであるから、これを一つの性被害であると感じて苦しんでいる女性たちについては、教育者や親として対処すべき責任があると私たちは考える。場合によっては、PTSD や不安障害と診断されたことで、かつての裸教育者に異論を述べる根拠ができて安心したと述べる女性もいる。

女現研では、もちろん幼稚園児ウォッチャーなどは存在しないため、近隣の（特に、裸教育の小学校や幼稚園を付属校に持つ大学や高校の）女子学生・生徒ウォッチャーに頼んで、運動会などの交流イベントなどの機会に、苦しんでいる園児などがいないか観察してもらっている。

## (2) 水泳や陸上競技のユニフォームなどの性的利用

### (ア) 女子生徒からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

#### (a) 女子生徒からのご相談事例 1

「学校で水泳の授業があり、スク水を着てますが、授業中や着替え中に男の先生が見てくるのがとてもイヤです。ほとんどの女子は競泳選手でもないのだし、体にピッタリはり付くタイプでない、ふわっとした水着にできないものでしょうか？ 日本だと基本はどの学校もこれでやってきたのだと思いますが、不思議に思っています。」

#### (b) 女子生徒からのご相談事例 2

「高校生です。最近、わたしは胸が出てきたのですが、どちらかという胸が小さめの女の先生から、水泳の部活での着替え中などに“どんどん膨らんでるよねえ”などと言われて困っています。」

#### (c) 女子生徒からのご相談事例 3

「体育の授業で、クラウチング・スタートのときに、男性教師が“いい光景だね”と言っ

たことがあって、あとで女子みんなで変態教師とうわさしたことがあります。それからは、みんなクラウチングのときにお尻を上げないスタイルで走り始めようという作戦になったのですが、走っていると胸が揺れる子は揺れるので、今度はそれがターゲットになって、その先生から“ずいぶん大人の女性の体型に近づいたね”と言われていて、あとでその子を慰めました。問題の先生は、●●高校の●●先生です。」

#### (d) 女子生徒からのご相談事例 4

「最近、YouTube を見た友だち (同じ陸上部です) から、観客が性的な意味合いで撮影したと思われる私たちの陸上競技の様子がアップされていると言われました。見てみたところ、普通に撮影したのでなく、全身や顔よりも胸やお尻ばかり撮っていて、明らかに性的な意味での映像だと感じました。普通、いい記録が出て喜んでいる女子選手の場合、特に顔を撮ると思うのですが、そのときも胸やお尻を撮っています」

#### (e) 女子生徒からのご相談事例 5

「私の水泳の様子や水着を整える様子が YouTube にアップロードされていたり、アダルト動画として販売されています。撮影の許可も販売の許可もしたことはありません。撮影自体は会場で許可されていたので、これを批判することはできません。でも、それをアダルトとして扱い、売るとは断固許可できないです。助けていただけませんか。よろしくお願いします。」

#### (イ) ウォッチャー調査報告 (考察と対応)

女子学生・生徒の水着姿やスポーツ着姿を性的関心の対象としたり性的コンテンツとして扱う趣味やビジネスは、今に登場したものではない。むしろ、昭和時代のほうがその傾向、とりわけロリコンの傾向は甚だしかったのである。

そもそも、女子バレエや女子シンクロナイズド・スイミング (現在はアーティスティック・スイミング)、フィギュアスケートなど、歴史上において男性による女子愛玩競技として扱われた経緯のある競技もある。

しかし、そうだからと言って、体育の授業を受けているにすぎない女子生徒にしてみれば、あるいは、純粋に競技としてのスポーツをやり記録に挑戦している女子選手にしてみれば、スポーツと性をめぐる歴史など、眼中にないだろう。むしろ女性側の不勉強はよくないだろうが、性的目的でこれらのユニフォームを着ているわけでもないときに性的目的で撮影され、その姿がアダルトコンテンツとして売られている現状は、当然私たちとしても許すわけにはいかない。



女現研では、これまでにアダルトサイトに対して多くの削除依頼を出してきた。削除に成功したものもあるが、そうでないもののほうが多い。映っている女性が明らかにご相談女性であっても、裸体姿ではないため、児童ポルノやアダルトコンテンツにさえならないものが多いことも一因である。

## 11. 女子高生・女子中学生のAV出演や援助交際、JKビジネス

### (1) 女子生徒からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

#### (ア) 女子生徒からのご相談事例 1

「わたしの高校の友だちについての相談です。わたしは、五・六人の仲良しグループにいて、いつもおしゃべりしたり勉強を教えあったりしているのですが、そのうち一人がAVに出ていることがわかりました。とてもショックを受けています。そのAVを見つけたのは、同じクラスの男子ですが、仲良しグループの二人ほどは、あまりショックを受けてなくて、むしろ興味本位で本人に聞いているのがつらいです。内容としては、部屋の中や野外で排尿や排泄をするものになってました。いろんな女子高生がかなりの人数出ているシリーズのようでした。まだウソだと信じて、心の準備もなく見たサンプル動画では、顔にはモザイクがかかっており、友だちとはわかりませんでした。男子がダウンロードしたのを仲良しグループのその二人から見せられたときは、はっきり友だちだとわかりました。世の中にそういうものがあることは知っていましたが、ごく普通の女子高生、しかも友だちが出ていることは、わたしとしては勉強ができなくなり、睡眠もとれなくなるようなショックです。」

#### (イ) 女子生徒からのご相談事例 2

「私はJKビジネスを二つやっています。一つは男性向けで、体を密着させたり頭を撫でたりするもの、もう一つはレズの女性向けで、キスやオナニーをしてあげるものです。自分としては、できれば大学生や社会人になっても続けていきたい仕事です。」

#### (ウ) 女子生徒からのご相談事例 3

「JKビジネスをやってみようか迷っている女子高生です。友だちが何人かやっているの、わたしも興味を持ってしまっています。性交がないタイプのもので、処女のままでい

られるという考えで、やろうとしていますが、安易な考えといえはそうかもしれません。でも、どうしても、今まで母親（離婚して、わたしを一人で育てています）に甘え、頼ってきたばかりだったのが、少しエッチなことをしゃべったりしたりすれば自分のお金を自分で稼げるというところが、なぜか親孝行の気持ちと結びついてしまい、やってみるといふ気持ちに今はなっています。」

## (2) ウォッチャー調査報告（考察と対応）

女子高生・女子中学生の AV 出演や援助交際は、昔から問題視されてはいたが、最近はその内容の多様性から、頭文字を取って「JK ビジネス（女子中学生は JC ビジネス）」なる語も登場している。添い寝、密着、耳かき、マスターベーションの披露、使用済み下着の直売など、あらゆる女子高生・女子中学生の性的な商売が含まれる。

これらにおいて、児童福祉法違反や条例違反等によって罰を受けるのは女子高生・女子中学生を買った側であり、私たちも、女子側に違法性がなく彼女たちが被害者とされる以上は、彼女たちの「購入者」側を、まずはとりあえず批判することになっている。

しかし、この態度は当然、私たちの方針や立場からすれば誤ったものであり、事実、あくまでも表向きのものである。私たちは、女子高生・女子中学生側、そしてその親たちにも、最初から責任があると考えている。法や条例、そしてそれらに携わる者たちに本当の倫理と正義があるならば、「購入者」側も女子・親側も両者とも罰するか、そうでないならば、どちらにも罰を与えず、可罰的違法性・条例違反無しとして放置・放任すべきであると私たちは考えている。

私たちの調査活動も、そのような姿勢のもとで行っている。「購入者」側を咎めるだけの活動では決して終わらない。選りすぐられた女子高生ウォッチャーたちに、AV 出演や援助交際、JK ビジネスに手を染める生徒が各担当校からなるべく出ないように、そのような世界に興味のある生徒・友人たちの動きを観察してもらい、実際にそのような世界に足を踏み入れた生徒・友人たちについては、本部に報告してもらっている。

## 12. 女子生徒（娘）と母親の性

～ ママ友・PTA・授業参観などに見られる内的な性的闘争 ～

### (1) 母親からのご相談事例

（類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。）

#### (ア) 母親からのご相談事例 1

「中学生の娘のいる母親です。女性として使うべきでない言葉も使うと思いますが、聞いて下さい。最近、うんこ漢字ドリルやうんこ演算、うんこグミなど、とにかく大便関連のコンテンツがバカみたいに流行し、うんこブームのようになっています。

これらは基本、小学生向けですが、中学生の娘やその友人たち、世の女子高生までも、きゃあきゃあ言いながら面白がって読んでいます。あと、何人かのママ友も、普通に“うんこ”という言葉の口に出すようになったので、聞いてて死ぬほど恥ずかしいのです。

排泄が自然なことであるということ、ある程度面白く教えるのは全然いいのですが、ここまで爆発的のヒットになり、それについて女子生徒だけでなく母親たちまでもがノって理由が、私にはわかりません。うんこ漢字ドリルを担当した編集者の谷綾子さんという女性も、平気でうんこと言いますし、ご自分のそれや排泄について平気で語っていて、世の母親にうんこ学習やうんこ観察、うんこ日記を勧めています。女子アナも笑いながらその言葉を口にしていました。

ママ友からの仲間はすれになるという一抹の不安はあるのですが、どうしてもこういうブームには私は納得できません。“女子アナの女子穴からもうんこは出ますし、うんこを話題にすることは自然であるべきですよね”、“あら、上手！（笑）そうですよね、同感です”とか女子アナや女性記者、女性教師が言っているのを聞いて、頭は大丈夫か？と思い、聞いているこっちがバカ女になった気分です。

排泄の自然さとはそういう意味でない、と私は信じています。しまいには池袋のパルコで、“うんこ展 うんこ学園の夏合宿 in 池袋”というバカみたいな展覧会が開かれ、世のママたち、女子大生から女子小学生までが見物に行っている様子がニュースに出ました。ネット上には幸い、私と同じようなママたちもいて、展覧会のそばを通過してみたところ、男性たちのほうが引いているのが実情だと言っていました。

汚い言葉も使いましたが、同じ女性として、うんこ女どもが本当にバカに見えます。」



《日テレ NEWS24 “「うんこ漢字ドリル」誕生の経緯を聞く”にて、担当編集者の谷綾子とアナウンサーが語る》

### (イ) 母親からのご相談事例 2

「娘が『夫のちんぽが入らない』という本を読んで、このタイトルをお友だちと連呼して面白がるようになりました。最初はわたしがこっそりと耳にしたことで知りましたが、わたしに知られて、厳しく注意されたのがよほどイヤだったらしく、かなりふて腐れています。女の子がそういうことを言うものではないという言い方が気に入らなかったようで、そこは反省点です。ただ、娘の将来が不安です。この本（マンガ化済み）はドラマ化も決定したようで、娘は見るようです。話の内容はそれなりに深いようですが、とにかくタイトルの言葉を連呼するので、まったく情けないと感じています。」

### (ウ) 母親からのご相談事例 3

「私には中学生の娘がいます。よくお母さん方とお会いしたり、授業参観などにも行きますし、地域のイベントにも親子で顔を出すほうです。さて私は、他のお母さん方や男性の先生方、参加者の男性方の前で、娘よりもいい女だと見られたいという性的な願望が強い気がします。このような自覚は、昔から感じてきたのですが、娘が生まれてからもそういう気持ちが抜けない自分に、喜んでも悲しんでもいます。その点、私よりも娘のほうが道徳的に立派な女性だと、かえって安心しているありさまです。このようなことで悩んでいるお母さん方がどのくらいいらっしゃるのか、知ってみたいと思っています。」

### (エ) 母親からのご相談事例 4

「娘の学校の授業参観や運動会に行ったときや、町内や地域のお祭りに参加したとき、私と娘よりもスタイルや成績のよい知り合いのお母様とお嬢さんに嫉妬して、悔しいと思っています。いけないとは思いつつも、そう思う自分がいます。そう思うことで、そこから何かが始まるわけでもないのに、そう思う自分に苦しんでいるというのが正直なところです。」

## (2) ウォッチャー調査報告（考察と対応）

世の母親たちも、所詮は女性であり、それ以前に動物の雌である。これだけは間違いのない。男子生徒の母親の場合、我が子が段々と父親のような性的に成熟した男になるのを、色々な思いはありながらも見つめることになる。一方、女子生徒の母親の場合、やがて娘は自分と同じ大人の女になるわけである。だから、娘が性的倒錯的なことに興味を持ったとき、それが自分と同じ趣味なら対抗心が芽生え、異なる趣味なら娘を異常な育ち方をし

たとして叱りつけるようなことになる。

同じスカトロジー趣味の母子どうしなら、別に宗教団体のところで論じた一燈園やムーン・ライト・スタジオのようなスカトロジー系の集団に入信・入会するだろう。だが、めったにそんなことは起こらない。いつのまにか、娘は極めて平均的な女性へと成長するものである。

娘が意図的に面白がって性器や排泄物の呼称を発言しているなら、それは性的関心や性欲のやや強めの女子の思春期にはしばしば見られることだ。その場合は私たちも、「全く心配は要りません」と母親たちには回答している。

但し、やたらと発言回数が多かったり、口を突いて不随意的に発しているようなら、別に解説したチックの一種である汚言症（コプロラリア）である可能性もあるから、一度小児科や婦人科、神経内科、心療科などを受診されてもよいだろう。

また、母親が娘に嫉妬したり、女として良く見られたいという願望を持ったりすることは、それ自体を咎めることはできない。文京区幼女殺人事件のように、相手の娘を殺害するなど、罪を犯したなら別である。しかし、女としての性の煩惱について真剣に心の中で悩み苦しむ、葛藤しているならば、その葛藤が思わず娘を叱る言葉に出るなどする場合はあっても、その母親は何とか子育てをやりきるだろう。むしろ、そうであってほしいと私たちは願うばかりである。

但し、幼少期・児童期に虐待を受けて育った母親が我が娘にも虐待をしてしまう被虐待症候群（俗称「白雪姫コンプレックス」）や、男性に高い理想を追い求め続ける依存症（俗称「シンデレラコンプレックス」）に発展している場合は、当然、被虐待児の保護や母親への精神病理学的措置が必要である。

## 参考文献

総務省 犯罪白書

[http://www.moj.go.jp/housouken/houso\\_hakusho2.html](http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html)